

オン・ラシュ・リアン

結城 洋一郎

今、フランスの全労働組合および左翼政党の中で、一つの歌がテーマソングとして歌われている。

題名は「オン・ラシュ・リアン (On lâche rien)。「私(たち)は、あきらめない」という意味である。

この歌を作り歌っているのは、「アシユカ・エレ・サルタンバンク (HK & Les Salimbanks)」というアラブ系フランス人のグループで、新自由主義を強行するサルコジ政権に対する怒りから、この歌を歌い続けた。

その激しい政治批判の内容とテンポの良さが、市民・若者・労働者の心をとらえ、今やこの歌は、様々な集会やデモにとって不可欠の合言葉となった。

世代や人種や党派を超えた人々が、こぶしを振り上げ、跳びはねながら「オン・ラシュ・リアン」と繰り返し返す姿は、私たち日本人にとっても一見の価値があると思う。

動画サイト「ユーチューブ」で、「あきらめないぞ」と入力すると、日本語の字幕付き動画を見ることができ¹⁾。

ところで現在、フランスの労働組合は大きい順に、①「CGT」(共産党系)、②「CFDT」(社会党系)、③「CGT-FO」(C

GTの非共産党系であるトロツキストと右派が脱退して結成)、④「CFE-CGC」(管理職系)、⑤「CFTC」(カトリック主義系)、⑥「FSU」(教職員、独立系)、⑦「UNSA」(同じく教職員、独立系)、⑧「SOLIDAIRE (ソリデール)」(CFDTからの脱退組と非共産党系の連合組織)、という八つのナショナルセンターに統合されている。先の動画には「SUD」と書かれた様々な色の旗が映っているが、これは、「連帯・統一・民主」の頭文字で、⑧を構成する主力組合の旗である。ここには教職員、運輸、学生など各種の組合が参加し、近年、勢力を拡大して第四位になりつつあるという。

また、右記八組合のうち①と③は長年にわたって犬猿の仲で、決して統一行動をとることとはなかったのだが、一九九五年に起きた史上最長の交通ゼネストの際に初めて共闘した。以来、この関係が維持され、二〇一〇年の「年金改革反対集会」²⁾においては、右記八組合の全てが共闘している。そして、この集会の演説の中で、各組合の幹部たちが「私たちはあきらめない」と繰り返し、デモ隊がこの歌を歌いながら行進しているのである。

さらに政党関係に目を移せば、昨年のフラ

ンス大統領選挙の第一回投票において「左翼党」のメランション候補³⁾が第四位になったのだが、この時、バステイユ広場には一二人ともいわれる支持者が集まり、会場には「ラ・マルセイエーズ」と「インターナショナル」が鳴り響き、アシユカたちがステージで「オン・ラシュ・リアン」を歌った⁴⁾。

こうした動きが相乗し、オランダ社会党政権の誕生をもたらしたのである。

連帯と信頼は力を生み、背信と憎悪は破滅のみを導く。

私と私の友人たちは、ともすれば脱力感に襲われそうな昨今、この動画を見て「世界には未だこういう人々がいる」と勇気づけられながら、心の中で「オン・ラシュ・リアン」とつぶやいているのである。

(1) ユーチューブで「On lâche rien 2010」の入力でトップに出てくる動画も素晴らしい。また、「B」を「E」に代えて入力しても様々な関連動画を見ることができ⁵⁾。

(2) ユーチューブで「5000 Avignon lâchent rien」と入力して閲覧可能。

(3) メランションは社会党の元閣僚。社民左派の「左翼党」を立ち上げ、共産党と共に「左翼戦線」を結成して大統領選挙に臨み、第二回投票では当然ながらオランダを支持した。

(4) 集会当日の五月一八日は「パリ・コミューン」の記念日。ユーチューブで「Bastille Front de gauche 2012」と入力して閲覧可能。

1) <http://www.youtube.com/watch?v=H-yu-u-ki> よういちろう・小樽商科大学名誉教授